

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375601016		
法人名	社会福祉法人 嘉祥福祉会		
事業所名	グループホームあま恵寿荘		
所在地	愛知県あま市二ツ寺西高須賀2番地		
自己評価作成日	平成27年 9月30日	評価結果市町村受理日	平成28年 2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JiyosvoCd=2375601016-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に「その人らしさ」を大切に、利用者が生活の主体となるよう、できる限り自発的に行動ができ、自分の思いを伝えやすい環境作りに努めている。特に家族との関係を大切に、家族との外出や外泊の機会が増えるよう働きかけ、施設と家族と共に利用者を支えていけるよう目指している。またその為には家族と面会時には必ず今の利用者の生活についてゆっくり話し、家族が施設に長い時間過ごしやすい環境作りにも気を付け、信頼関係が築けるよう努めている。地域への行事にもできる限り参加をし、施設の中だけの生活にならないよう心掛けている。福祉まつりでの作品展示や総合防災訓練での地域住民の参加などで地域に開かれた施設となるよう努めている。その他、複合施設の中のグループホームであるため他部署と連携して行事を行ったり、ホームでの入浴が難しくなった時に併設施設の機械浴を使用するなどの柔軟な対応も可能である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

総合施設内のグループホームである強みを生かし、法人全体での研修や勉強会が多く開かれ、職員を育てる取り組みがしっかり機能している。職員間の良好な関係、管理者と職員が互いに意見を言える信頼関係も構築されており、職員が長く働けるひとつの要因となっている。
利用者に対するケアは、理念である「その人らしさ」は何かを職員同士で考えながら笑顔につながる支援を心掛けている。利用者との関係を重視し、少しでも自宅の生活に近づくように配慮している。
総合施設内の合同のレクリエーションを楽しんだり、重度化・終末期のあり方について連携ができており、利用者や家族が安心できるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしさ」を大切に、地域の中でできる限り普通の生活を送ってもらえるよう職員間で共有している。また、利用者にとっても家族にとっても心地の良い空間を目指している。	普段の生活や家族の話から利用者本人の意向をくみ取ること努めている。思いを形にすることで「その人らしさ」を最大限に発揮できるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事である福祉まつりで作品展示を行ったり、敬老会への参加を行うことで地域の方々との交流を図っている。また、施設全体の行事の慰問に地域の方を呼ぶなどしている。	地域の福祉祭り、敬老会への参加は毎年の恒例行事となっている。同法人のグループホームと連携し、ボランティアの受入れなどを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉まつりでは毎年地域包括支援センターのブースに作品を置かせてもらい、グループホームでの取り組みを地域の方々にも知ってもらえるよう努めている。また、認知症カフェへの参加を行い、家族との交流を行うなどしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回取り組みの報告と合わせて、利用者との交流の時間を設けて、実際の利用者の生活を直接感じてもらう機会を設けている。また、運営推進会議の中で防災訓練を行い、家族や役所の方々にも体験してもらっている。	利用者や家族、市や地域包括支援センター、民生委員などが参加し年6回開催している。運営状況など報告のほか、利用者が抹茶を点ててもなす場面もみられる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回高齢福祉課や地域包括支援センターの職員にも出席してもらい、情報交換を行っている。また、市町村の取り組みである認知症カフェへの参加も今年から行っている。	運営推進会議に市や地域包括支援センターの担当者が毎回参加しており、意見交換を行なっている。また、行政と連携し、認知症カフェを毎月開催している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体として委員会を設け、各部署の検討事例について話あったりしている。また、毎年必ず身体拘束についての内部研修を行っている。玄関の施錠については防犯上施錠している時間帯もある。	利用者に対する言葉づかいや対応は、職員同士でその都度注意し、声をかけ合っている。玄関の施錠は夜間のみで、日中は職員が声掛けしながら見守りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体で内部研修を行い、高齢者虐待について考える機会を設けている。特に虐待になるかどうかのグレーな部分の不適切ケアと言われるものについて、一人一人が自分たちのケアについてどうなのか考える時間を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で成年後見制度について学ぶ機会を持ち、身内が近くにいる方もいる為どのような制度を活用できるか考えたりしている。しかし、全職員が理解するまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は必ず口頭にて契約書の内容の説明を行い必ず疑問や不安がないか尋ねている。また、入居にあたって確認しておきたいものもわかりやすくまとめている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて家族の意見や要望について聞き、市役所の方や民生委員と気軽に意見や質問ができるような環境作り心掛けている。	利用者や家族からの要望や意見などの改善点を検討し、支援に繋げている。施設の掲示板や月1回の家族向け便り、ホームページなどで情報発信を行っている。	来所が難しい家族への情報発信について工夫されることに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はできる限り現場に入り、状況を把握しその上でミーティングやカンファレンスで職員の意見を反映できるよう努めている。施設長も常に気軽に相談ができる関係作りはできている。	施設長や管理者は普段から職員とコミュニケーションをとるよう努めている。また、ミーティングや記録等で情報共有をしている。職員からの提案事項は多くサービス向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の得意分野を生かせるような仕事の割り振りを行ったり、常勤・非常勤と関係なく意見が言え、個々がやりがいをもって仕事ができるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、全体会議の中で内部研修の時間を設けている。また外部研修での参加もできる限り均等に受けることが出来るように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームの連絡会への参加や法人内でのグループホーム連絡会にて情報交換を行って、できる限りサービスに反映できるよう取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者になった職員を中心に本人がホームの一員として安心して生活できるようこまめに声掛けを行う。特に1対1でゆっくり話をする機会を設けるようにしたり、ホームの中で役割を持って生活できるよう配慮する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時には何かホームの生活の中で要望や気になっていることはないか聞き、また面会時には必ず本人の状態や様子を伝え、早く信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族に今までの生活歴を聞いたり、どんな生活を望まれるかを聞き、本人が求めている生活を早く把握できるよう努めている。また、できるだけサービス導入前に使っていた介護サービスの介護者に話を聞いたりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる限り利用者一人一人が役割を持てるよう支援している。あまり職員が手を出しすぎないよう気を付け、利用者同士で考えながら助けあえ、自然と関係が作れるよう気を付けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出支援の際は家族への参加を呼びかけたりしている。また面会がしやすい環境づくりに気を付け、家族がゆっくり過ごせるような職員の配慮に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事への参加をできる限り行ったり、施設内での顔なじみの利用者の方と行事や喫茶の際に話ができるよう配慮している。また家族になじみの場所への外出支援の願いを、そういった場所をめぐる外出をした方もいる。	敬老会に参加したり、顔なじみのボランティアに会う機会をもうけている。また、書道や抹茶を点てるなど、趣味の継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースでの席についてはできるだけ同じ年代の方と同席にしたり、仲の良い方と近くなるよう気を付けている。また挨拶だけでも必ず声をお互い掛け合えるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も併設施設への入居の相談や、併設施設に移った場合は施設の相談員と連携しながら相談にも応じている。また、一度退居されてもう一度再入居された方も見える。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限りそれぞれ1対1で居室でゆっくり話ができる時間を設け、今本人が何を望んでいるのか把握するように努めている。また、言葉だけでなく表情の変化にも日々気を付けるようにしている。	利用者の少しの変化も見逃さないよう気を配り、変化があればその都度職員同士で話し合う時間を設けている。	入浴時などリラックスした時間に利用者の思いを受け止めている。記録することで介護計画に反映されることに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅のケアマネージャーや家族より、今までどういった暮らしをしてきたのか聞き、デイサービスやショートステイなどのサービス利用があればそちらを訪問し、介護の実際について把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録にはそれぞれの配慮すべき項目を載せ、また時系列で記入するようにし現状把握に努めている。また、毎月本人の状態についてもアセスメントしておいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランについてはその都度家族に説明し、何を望まれているのか確認し、時には協力をお願いすることもある。また、ケアプランについては1ヵ月ごとに職員間で見直しを行い、情報の共有を行っている。	1ヵ月毎にモニタリングを行い、情報共有し検討している。また、居室で家族と一緒におやつを楽しむなど普段の利用者の様子を伝え、家族の要望が介護計画に反映するよう努めている。	今後も本人や家族の思いを介護計画に反映するために、家族がサービス担当者会議に出席できることに期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録は時系列で毎日携わった職員全員が気づいたことやケアプランの実施状況等を記入するようにしている。また、毎日必ず勤務に入る前にケース記録を読んでから入るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームでの入浴が難しくなった際は併設施設の座浴機を使用し、入浴を行ってもらったり、併設施設Nsへ日々の体調の相談も可能である。また、併設施設と行事を一緒に行ったり、外出を一緒に行ったりもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方を慰問で呼んだり行事の際に利用者の付き添い介助等の協力をしてもらっている。また、総合防災訓練の際には地域の方々にも参加をもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望は聞き、対応している。主治医とは月2回の往診以外にもその都度何かあればすぐに対応してもらえる体制になっている。	月2回の往診は利用者全員が受診しており、24時間受入れ可能である。また、法人の看護師とは些細な相談もできる関係であり、利用者が安心して生活できる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から何かあればすぐに併設施設Nsに相談・報告し、協力してもらえる環境にある。利用者とも普段から声をかけ気にかけている為、利用者も安心して看護を受けることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院とは日頃から情報交換や相談は行っており、関係作りも行っている。その他の病院へ入院した際もできる限りこまめにケースワーカーと連絡を取り、今後について話しをし家族へも説明している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必ず契約時には重度化した時や終末期の在り方、急変時の対応については今の家族の意向を聞き、現在のグループホームでできる限度についても説明し了承を得ている。またその都度、状態に変化があるごとに今後の意向について確認し、主治医と情報共有している。	「入居時確認事項」により、状態変化の対応について書面で承諾確認を行っている。浴槽が利用できない等重度化が進んだ場合、健康面や安全面を考慮し法人の特養へ転居するなどの対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場内での内部研修では行っているが、まだまだ全職員が定期的に行え、実践できる力が身に付くまでには至ってなく機会を増やす必要はある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年1回は消防署と合同で避難訓練を行い、地域の方や家族、にも参加してもらい利用者の誘導を手伝ってもらっている。また、その他にも2ヶ月に一度は炊き出し訓練や通報訓練、消火訓練等を行っている。	市の災害弱者の受入れ施設になっており、定期的に避難訓練等を行っている。非常食は利用者と職員の3日分備蓄され、期限を確認しながら炊き出し訓練に使用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いはもちろんのこと、否定的な言葉やスピーチロックにつながる様な制止する言葉かけとにならないよう気を付けている。また居室へ入る際はノックをし、声を掛けるなどプライバシーにも気を付けている。	利用者に言葉をかける時は、目線を合わせ、優しい言葉使いで話しかけている。居室でゆっくり休んだり、新聞を読んだりする時間を大切に、家庭的な雰囲気大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の声掛けの仕方についてはできるだけ「開かれた質問」に心掛け、思いや希望が表しやすいよう気を付けている。それが難しい方にはいくつかの選択肢の中から選んでもらうなど気を付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間帯によっては職員配置上、職員の都合になってしまうことがあるのができる限りは本人の希望を聞きながら、個人のペースに合わせて声掛けし介助を行うよう気をつけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や就寝時は本人にくして髪をといてもらったり、また化粧を続けている方もいる。夏祭りには職員からマニキュアや口紅を塗ることを提案し、とても喜ばれ、夏祭りが終わってもマニキュアをそのままつけていたいと言われた方もいた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの庭で野菜を作り収穫をしてもらって食べたり、調理の際は皮むきや食器への付け分けを行ってもらっている。誕生日の際には本人の好きな食べ物を聞いて提供するなどしている。	畑で収穫した野菜を取入れ、手作りの温かい食事を提供している。利用者が盛り付けや後片付けを手伝ったり、手作りおやつを職員と一緒に楽しんでいる。また季節ごとにイベント食の提供もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量についてはすべての利用者を毎食チェックをし、水分量についてもいつも水分を残される人には水分チェック表を作り、ジュースやスポーツ飲料など飲みやすいもので補ったり、ゼリーを作って水分摂取してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的には声掛けをし本人に行ってもらっているがそれぞれの状態に応じて磨き残しを介助したり、義歯の管理を職員が介助したりすることもある。また洗口液を使ってうがいを行ってもらっている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ポータブルトイレの使用をしている方は日中はできる限りトイレに行ってもらえるよう声掛け・介助をしたり、排泄物用品もできるだけ使わないようこまめなトイレへの声掛けや、布パンツの使用ができないか検討している。	プライドを傷つけない優しい声掛けをしている。また排泄のリズムをつくり、自立に向けての支援を心掛けている。排泄記録等で排泄リズムを職員間で共有し、紙パンツから布パンツへの移行した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取がしっかり行えるように飲みやすいものを提供したり、起床時・就寝時に水を飲んでもらうなどしている。また散歩の促しなど歩行する時間を増やせるよう気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中については毎日入浴が行えるよう準備しており希望があれば毎日の入浴ができるようにしている。また無理に入浴してもらうことなく本人のタイミングを見ながら声掛けをしている。	入浴は2日に1回のペースである。利用者のリラックスを心がけ、好みの湯加減にしたり、1対1の対応でゆったりした気分を話す等の入浴環境をつくっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の生活についてはある程度食事やおやつ、体操の時間などは日課として決まっているが、その時々体調に合わせて時間をずらし対応している。また、昼寝を促すなど休息できる時間も作るよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に携わる職員は必ず薬の用法・用量・副作用について理解するよう申し送りや主治医への確認を行っている。また、薬が変更されれば経過について主治医へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家庭菜園を行い、収穫を楽しんだり、以前よく行っていた裁縫で作品を作ったりその人その人にあった楽しみごとを考えている。またそれぞれ食事の準備や洗濯たみなど役割を持って行ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出についてはなかなか行っていないが、春や秋など気候の良い時は外出をしたり、家族へもできる限り、喫茶店への外出や外食などの機会が増えるよう協力をお願いしている。またなじみのある場所への外出などもお願いしている。	季節毎のイベントで外出をしているが、近所の散歩や買い物など日常の外出は現在難しい状況である。対策として広い施設のホール内を歩くなど気分転換を図っている。家族と一緒に外出している利用者も多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分である程度の管理ができる方には家族の了承を得て所持してもらい、施設内の自動販売機で飲み物を購入したり、公衆電話を使用したりしている。買い物をする際も代行するのではなくできる限り本人にお金を払ってもらおうよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に了承を得て、公衆電話で職員見守りのもと自ら電話をしたり、年に何回か遠方の方との手紙のやり取りをしている方もみえる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・リビングには季節感を感じられる作品を置いたり、畑で採れた野菜を飾ったりしている。また夏は中央庭にグリーンカーテンも兼ねて、ゴーヤを育て日差しを防ぐとともに成長を楽しめるようにしている。	玄関・廊下・リビングなどには季節感ある手作りの作品が多く展示されており、暖かみを感じる空間になっている。また整理整頓もできており、清潔感がある。庭では野菜や花を育てており、自宅にいるような安心感を味わう事ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファが置いてあるのでそこでうたた寝をしている利用者の方もみえる。また食事をすすめる際のテーブルの席についても出来る限り気の合った人同士が同じテーブルになれるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	神棚など居室に置いている方や本人が使いやすい家具を持ち込んで使用したりしている。また、昔使っていた抹茶茶碗などを持ってきている方や、ホワイトボードを持ち込み予定を書いている方もみえる。	自宅で大事にしてきた物や、いつも使用していた思い出の品などを居室に持ち込み、馴染みの品の中で安心して生活している。できる範囲で居室を掃除するなど、気持ちよく生活できるように声掛けをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ家具は本人が自宅等で使用していたものを持ってきてもらい、本人が居室内で動きやすいよう家族や本人と話し合いながら配置するように配慮している。		